

専門医研修カリキュラム

放射線科の専門分野として、以下の4分野を含む最新の画像診断機器を適切に利用できる画像診断学の専門医及び、放射線治療専門医のための専門医研修コースを組んでいます。

1. 画像診断一般、(CT・MRI・US・単純XP)
- 2 核医学 (SPECT・PET)
3. IVR(インターベンショナルラジオロジー:血管内治療や透視。CTガイド下での診断・治療手技)
4. 放射線治療

研修の概略

研修期間1年目は画像診断の基礎、2年目は各分野の研修をさらに深めるよう計画されている。当初は、いずれの検査も放射線専門医につきマンツーマン体制がとられる。3～6年目は各自の専門分野に即した関連病院での研修を含め計画されている。

I. 専門医研修の到達目標と評価項目：専門医研修1～2年（卒後3～4年）

A. 画像診断領域 (XP, CT:MR:)

初年度の到達目標及び評価項目：

- 1) 電子画像端末の扱いに習熟する
- 2) CT断層画像の扱いを理解し、適切な検査が行える
- 3) 造影検査の適応を理解する
- 4) 基本画像解剖を理解し、病変の拾い上げができる
- 5) 病変の有無、範囲などの適切なレポート作成ができる
- 6) USの基本手技に習熟する

2年目の目標及び評価項目：

- 7) MRの基本撮像法を理解する
- 8) CT、MR、USなど各種断層画像検査の利点・欠点を理解する
- 9) 造影剤富り作用の初期対応ができる
- 10) 頻度の高い疾患につき必要な検査や治療法を含む詳細なレポートが書ける。
- 11) 稀な疾患に対し上級医や臨床各科のドクターと適切な議論ができる
- 12) 各種診断装置の特性を理解し、画像情報より総合画像診断ができる。

B. 核医学領域 (RI:PET)

初年度の到達目標及び評価項目：

- 1) 被曝防護に関する十分な知識がある
- 2) 放射性医薬品の取り扱いを理解し、適切な検査が行える
- 3) 放射性医薬品の特性を理解し、適切な薬剤を選択できる
- 4) 一般的な核医学検査における正常像がわかる
- 5) 一般的な核医学検査における疾患像がわかる

2年目の目標及び評価項目：

- 6) 特殊な核医学検査における正常像がわかる
- 7) 特殊な核医学検査における疾患像がわかる
- 8) 生理的取り込みについても習熟し、異常を的確に指摘できる。
- 9) 他の診断機器(CT, MRI)の所見を含め総合的にPETの所見を説明できる。

C. IVR領域

初年度の到達目標及び評価項目：

- 1) 血管造影の基本手技を理解する
- 2) 大腿動脈の穿刺・止血ができる
- 3) 腹腔動脈の選択ができる
- 4) 塞栓物質の扱いに習熟する
- 5) 検査前後の指示ができる
- 6) 適切な検査助手ができる

2年目の目標及び評価項目：

- 7) 週応判断について上級医と適切な議論ができる
- 8) 基本的検査(検査としての血管造影)を術者として施行できる
- 9) マイクロカテーテルの扱いに習熟する
- 10) 肝動脈を選択できる
- 11) より特殊なIVRについても、その介助ができる。

D. 放射線治療

初年度の到達目標及び評価項目：

- 1) 放射線治療の適応疾患について理解する。
- 2) 放射線治療にかかわる診察手技を習得する。
- 3) 放射線治療の基本技術を理解する。
- 4) 定型的な治療計画を一人で施行できる。

2年目の到達目標及び評価項目：

- 5) 放射線治療に伴う有害事象を理解し、基本的疾患について治療に対するインフォームドコンセントを行うことができる。
- 6) 応用的な治療計画を施行できる。
- 7) 定位的放射線照射、小線源治療、強度変調放射線治療などの特殊な放射線治療の技術についても理解し、指導医の元で放射線治療計画が施行できる。

E. 研究会、学術活動の目欄と評価項目：

- 抄読会にて興味ある報告について脱F13する。(1ポイント)
- 放射線関連の学会、セミナーなどに参加する。(1ポイント)
- 経験した症例について学会や研究会に発表する。(2ポイント)
- 経験した症例や興味ある症例について専門誌に投稿する。(3ポイント)

専門医研修プログラム(1-2年目)の評価：

- 1) 上記のA、B、C、Dの領域のうち最低2領域において、それぞれ80%以上の到達目標項目を習得すること。
- 2) Eの項目については年間5ポイント以上を達成すること。